

# 城山エコミュージアム通信

2012. 9. 15 第13号

ホームページ <http://www.city.sagamihara.kanagawa.jp/kyouiku/20856/index.html>



エコミュージアムとは、エコロジー（生態学）とミュージアム（博物館）の造語で、その地域そのものが、生きた貴重な資料であるという考え方の下に、地域の歴史や文化、自然について学び、地域への愛着を深め、交流を深めていく活動です。

## 城山町名

## 誕生秘話

なぜ、城山町は“城山”町となったのか？町名の由来とは？



城山（宝ヶ峰）



「城山」は独立した山です。「どくりつほう独立峰」だから、戦国時代には「山城」になり、後に「城山」と呼ばれるようになりました。ここが16世紀甲斐武田氏に対する小田原北条方の最前線の山城でした。城山は古くは「宝ヶ峰」と呼ばれていました。なぜそうなのかははっきりしません。

ここは相模原市緑区城山の地域ですが、以前は津久井郡城山町でした。今から57年前の昭和30年に「昭和の大合併」と呼ばれる全国的な町村合併があり、当時の川尻村と湘南村と三沢村の中沢地区が合併し城山町が誕生しました。その時新しい町名を募集したところ、「城山町」が一番多かったのですが、そう決まりましたが、実は山の3分の2くらいは当時の津久井町でした。しかし、それほど城山は城山地区の人々に強い、大きな存在感を与えていたのです。新町名募集の際、昭和22年に新設された新制中学校「相模丘中学校」の校歌に「♪ひとり立つ（独立峰）宝が峰（城山の別名）のゆるぎなき姿尊し…」とあり、城山という山が郷土城山（地区）のシンボルだ、との強いメッセージが中学生たちをとらえていましたから町名で「城山」がトップになったのです。校歌は、郷土出身の流行作家・かとうたけお加藤武雄が作詞したものです。

### 今回のトピック



- 旧城山町名誕生秘話
- いよいよ参加者募集開始！平成24年度城山エコミュージアムツアー 内容紹介
- 大好評！城山検定「丸い穴をあけた犯人はだれ？」
- 城山探訪「赤トンボの代表・アキアカネの見分け方」等



内容を少し  
だけご紹介!

テーマ

# 歴史と自然のカンヅメ・城山

～津久井城址（宝ヶ峰）を探索する～

平成24年10月14日(日)開催! (雨天28日に延期)

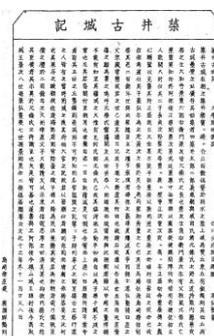


**なぜカンヅメ?** カンヅメには「中身が変質せず、そのまま保たれていて開くと新鮮」という「初体験、新発見の驚き」というイメージがあります。城山は長らく「手つかず」の「隔離状態」にありました。ですから遺跡も保全され、自然も豊かで、平地にしては珍しい樹木、野草、野鳥、蝶等が見られます。どうぞ、自分の眼で見て何かを発見してください。

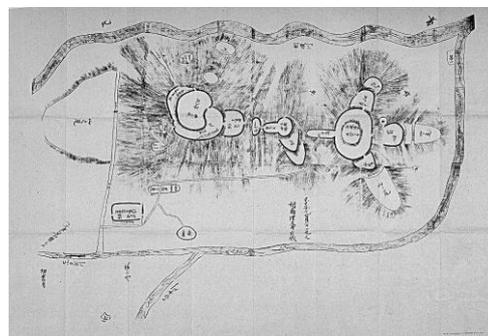


## 歴史の紹介

戦国時代16世紀には小田原北条氏の家臣内藤氏が治めていました。根小屋式山城で平時は麓の根小屋部に城主・家臣が住み、戦になれば山の上で最終防御する山全体が城の機能をしていました。天正18年(1590)小田原攻めとともに落城した後も、城址内には今でも当時から使われていた車坂(男坂)・女坂の道があり、御屋敷跡や堀切、宝ヶ池や本城曲輪等当時を忍ばせる史跡が残っています。江戸時代には天領(幕府が直接支配する領土)となりました。領主が管理した山を「御林」といい、良質の林産物を多く出す山は「御林」に指定され、城山もその一つになりました。また、幕末の頃この地を治めた代官・江川太郎左衛門英龍によって植林された「江川ヒノキ林」があります。現在も多くが国有林と県有林で、保健保安林、土砂流失防備保安林として管理されています。



築井古城記の碑と碑文



津久井古城図

(神奈川県教育委員会所蔵「赤星ノート」所収)

知ってナットク!  
しろやま



### 問題 丸い穴をあけた犯人はだれ?

城山町の名前の由来の城山をはじめ、このあたりにはキジョランというつる性の毒のある植物が生えています。キジョラン(鬼女乱)とは恐ろしい名前ですが、秋に実が割れて中から綿毛が出てくる状態が、振りみだした髪の毛のように見えるところから名づけられました。

このキジョランの葉に時々丸い穴があいていることがあります。

さて、犯人は次のうちのどれでしょう?

- ① バッタの仲間
- ② ムシ(葉を食べる小さな甲虫)の仲間
- ③ チョウの幼虫



キジョランの実



キジョランの葉





## 自然の紹介

約 100 ヘクタールの面積を有する県立津久井湖城山公園の中心に位置する城山は、自然の宝庫であり、植物と昆虫それぞれ 500 種以上、ムササビやフクロウなどの動物も多数生息しています。城山は天領として維シロヤマン 戸付かずの自然が残っています。また、ぐるりと一周できる独立峰のために、お花畑のある南斜面から、春先に可憐な花を咲かせる植物の多い北斜面まで、多様な植生が見られます。そのために、それらを餌として食べる昆虫の種類も豊富になるのです。

植物では、ギンラン、エビネ、サイハイランなどのランの仲間が多く見られ、サクラの種類も豊富です。また、冬の朝には、枯れた茎から氷の華が噴き出すシモバシラという草が多くあります。昆虫では、国蝶のオオムラサキの生息地としても知られています。城山エコミュージアム自然部会での 6 月の観察会で訪れた際は、ギンリョウソウが咲いており、生まれて初めての体験に感動しました。これらの貴重な自然は、県立公園として現在も大切に守られ、調査が進められています。麓に位置するパークセンターでは、自然関連の蔵書も多く、専門の研究員に話を聞くこともできるので、自然調査の基地としても有効利用したいところです。図鑑でしか知らなかった自然との初めての出会いが、こんな身近でしかもアクセスの便利な所で体験できることに驚かされます。



サイハイラン



オオムラサキ



シモバシラ (氷の結晶)



頂上に立つ大杉

### 大杉

山頂には樹齢 900 年以上といわれる大杉が立っています。その大きさは、人が 4 人程で囲まなければならない程の幹の太さで、近くに立つとその存在感に圧倒されます。



★ツアーに関するお問合せは、生涯学習課城山教育班（電話 042-783-8184）までお電話ください。



アサギマダラ (成虫)

正解は③

渡りで有名なアサギマダラ (写真) という黒・白・黄色のチョウの幼虫です。キジョランの毒を利用して体にため込んで鳥などに捕食されないよう巧みな手段で身を守っているのではないかとされています。新しい円い穴を見つけたら葉の裏をのぞいてみてください。色鮮やかなアサギマダラの幼虫が見つかるかもしれませんよ。

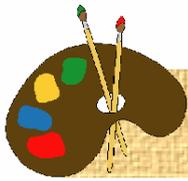


### こっそり問題 ご存知ですか？アカトンボ

群れ飛ぶ赤とんぼといえばアキアカネが代表選手ですが、このアキアカネについて正しいものは次のどれでしょう？

- ① 田んぼで羽化する 6 月下旬から稲刈りまでの間、いつでも城山で見ることができる
- ② 梅雨が明けて暑くなる前に涼しい高原へ移動する
- ③ ヤゴ (トンボの子供の頃の呼び方) の状態で越冬する

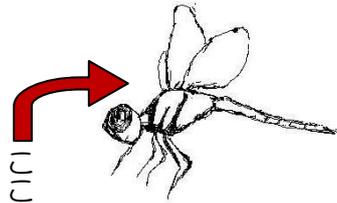
答えは次ページへ→



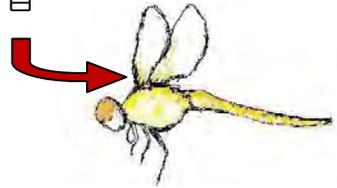
# 城山探訪

しろやま見どころ紹介

赤トンボの代表・アキアカネの見分け方



アキアカネ (模様あり)



ウスバキトンボ (模様なし)

アキアカネは活動すると体温が気温より10-12℃も高くなり夏の気温の高い平地では生きていけないと思われます。暑さを避け涼しい高原へ移動し、秋になると大きな群れになって田んぼへ戻って産卵し、卵の状態越冬します。夏中群れ飛ぶ赤とんぼを良く見ますが、これはウスバキトンボといってアキアカネとは違う種です。見分け方は図のように身体に黒い模様がはっきりあるアキアカネとは違い、模様が無く全体に薄いオレンジ色をしています。ウスバキトンボは、毎年東南アジアから九州など南の地方に飛来し、産卵と羽化をしながら北海道まで北上するものもいます。城山では7月中旬からたくさんのウスバキトンボが田んぼにやってきて産卵し、8月中旬の田んぼではたくさんの羽化を見ることができます。

ということで、3ページの問題の正解は②になります。

## Information

城山エコミュージアムを育てる会の活動を紹介

### 活動レポート

自然部会の活動紹介



#### ホタルの光に子ども達の瞳輝く

6月23日(土)相原公民館青少年部事業ホタル観察会にて自然部会の佐々木さんが講師をつとめました。城山地域に生息するホタルの生態はもちろん、美しい自然を守るためにはどうしたらよいか等お話ししました。ホタルの発光についての実験では物質を合わせて実際に光ったところを見た子ども達は目を輝かせていました。



講座の様子

ホタルの発光実験

古道部会の活動紹介



#### 近隣地域のご協力により 地域をつなぐ昔の道を調査中



大山橋前にて

城山エコミュージアム古道部会では、地域をつなぐ昔の道(古道)を調査中です。

6月13日(水)には、八王子市郷土資料館のガイドボランティアである石川梯二さんのご協力により八王子市高尾方面から城山地域の大戸地区へつなぐ大山道の調査活動を行いました。今後は、11月に再度調査を行い、相原地区の相原の歴史をさぐる会の皆様のご協力により近隣地域の古道から、更に城山地区内へ続く調査を継続してゆきます。



**好評開催中!** 写真で昭和30~40年代の城山の様子がよみがえります

**写真展『あの頃、あの時II~旧城山町に見る三丁目の夕日~』10月19日(金)まで開催中!**

会場: 東京家政学院生活文化博物館 (町田キャンパス内)

協力: 城山エコミュージアムを育てる会、小学館ビックコミックオリジナル編集部



#### 一緒に活動しませんか?

城山エコミュージアムを育てる会のメンバーは、地域の昔の写真、古道、自然、通信づくりなど、それぞれの興味にあわせて活動しています。高校生以上の方ならどなたでも参加可能! まずは見学してみませんか? 詳しくは右記まで。ご連絡をお待ちしています。

企画/作成: 城山エコミュージアムを育てる会

発行: 相模原市教育委員会生涯学習課城山教育班

問い合わせ: TEL: 042-783-8184【直通】

FAX: 042-782-1290

この通信のバックナンバーは、ホームページ(パソコン)からもダウンロードできます。携帯でも活動内容をご覧いただけます。

